

大山街道

見どころマップ

赤坂～三軒茶屋	1A 1B	二子玉川～荻田	3A 3B	長津田～鶴間	5A 5B	厚木～愛甲	7A 7B
三軒茶屋～二子玉川	2A 2B	荻田～長津田	4A 4B	鶴間～厚木	6A 6B	愛甲～大山	8A 8B



7. 厚木から愛甲まで

厚木の街は、近世には小江戸と呼ばれ、近江商人達の商家が多く建ち並び、平塚、茅ヶ崎、藤沢、伊勢原、小田原、津久井、高座、八王子等、これらの地域を結ぶ甲州道、八王子道など街道の要衝地でもありました。中でも江戸と相州を結ぶ矢倉沢往還は、「厚木の渡し」で他の街道と合流し、現在の酒井付近で柏尾道と行き会ったのち西に向かい、宿愛甲を経て伊勢原へ至る人馬物流の大動脈でした。

寛文10年(1669)の厚木村の絵図では、南北を通ずる大通りの両側に建物が並び約90戸の家が数えられます。この頃、ようやく宿場としての形態を整え、宿場の防火用水として必要な町の中央を流す堀が掘られ、天保2年(1645)に横町(元町)の側溝から工事を起こし、天保年間(1681)頃には町の中央まで通水され、さらにその60年後に下宿の最勝寺前までが完成しています。この今は無き用水堀は町としての厚木宿の発達を知るものの一つです。

糟屋宿

江戸より十五里、柏尾通り大山道と合流する下糟屋にあり、当時は人馬の継立が行われていた。現在はバス停名に上宿と下宿の名が残されている。

伊勢原宿

江戸より十七里、三本の大山道と金目道が通っている。宿は矢倉沢往還と田村通り大山道の合流付近にある伊勢原大神宮(伊勢原神明社)から南側に広がり、毎年、追い小山祭禮時には人馬継立が行われ、大変にぎわった。

大山登山マラソン大会



伊勢原駅北口鳥居前から大山阿夫利神社下社まで、全長 9km、標高差 650m のコースを舞台に、毎年 3 月に開催される。ゴール前には 1610 段の石段が待ち受けている。

伊勢原観光道灌まつり



伊勢原にゆかりの深い戦国武将・太田道灌をしのいで、毎年 10 月に伊勢原駅周辺で開催される。道灌公鷹狩り行列、北条政子日向薬師参詣行列、ISEHARA ソーレ大会などが行われ、多くの見物客でにぎわう。

11 浄心寺



天正 2 年(1574)相誉上人周貞が開山。本尊は阿弥陀如来を中尊とする三尊像である。阿弥陀如来像は南北朝時代の作で安阿弥陀様という様式をくむ美しい立像である。

12 小金塚古墳



直径 45m、高さ 6m の円墳で、幅 10m を越す周溝をもっている。周溝からは 4 世紀末頃の朝顔形埴輪が出土し、南関東でも古い時期の古墳として評価されている。

13 白金地蔵



大山街道(矢倉沢往還)と荻野道との三差路に立っている。万延元年(1860)地元の茂田半左エ門が子宝に恵まれなかったので子育て地蔵として建立した。現在 8 月 28 日は地蔵尊の縁日である。

14 普濟寺と多宝塔



開基は関東管領の上杉氏。本堂前庭にある多宝塔は、一部欠けているが復元高は 7m を越え、市内最大の石造建築物である。高部屋神社の北側にあった神宮寺から廃仏毀尺によって移設されたものである。

15 大慈寺と太田道灌の墓



太田道灌の叔父で、鎌倉建長寺の長老である周巖淑悦禅師は鎌倉にあった法雨山大慈寺をこの地に移して住んでいた。供養塔は、非業の死を遂げた道灌の霊を慰めるために建てられたといわれている。

16 高部屋神社(八幡社)



延喜式内社で、旧八幡社。拝殿は慶応元年(1865)のもので、茅葺きの総檜造りである。本殿は五間流造と大変珍しく、境内にある銅鐘には至徳 3 年(1386)の銘がある。

17 丸山城跡



丸山城は平安時代の終わりから鎌倉時代にかけてこのあたりを支配していた糟屋有季の居館跡といわれていた。しかし周辺の発掘調査が進むと室町後半の資料が多く発見され「上杉館では？」という説も上がっている。

18 せきどめ地蔵



この咳止め地蔵に願をかけるときは、初めに泥の団子をこねて供え、「咳の病気が治った時は本当のお米の団子をお供えます」とお祈りし、治った時は本物の団子を持ってお礼参りした。